

# 潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター

「患者さんの腸の状態を適切に判断し治療を行うこと」をモットーに多職種が参加する総合的・包括的なチーム診療・ケアを提供しています。



診療科  
ホームページ  
QRコード



## 得意とする疾患と担当医師

外来日(初診)	月	火	水	木	金
午前	○	○			○
午後			○	○	○

- 潰瘍性大腸炎・クローン病/先進的免疫統御療法(多数の治療を含む)/潰瘍性大腸炎 3800例、クローン病 1400例

岡本 隆一(センター長、消化器内科・教授)、大塚 和朗(光学医療診療部・教授)、藤井 俊光(副センター長、消化器連携医療学・准教授)、根本 泰宏(消化器病態学・准教授)、齋藤 詠子(消化器内科・医学部内講師)、清水 寛路(再生医療研究センター・助教)、竹中 健人(消化器連携医療学・講師)、河本 亜美(消化器内科・特任助教)、日比谷 秀爾(光学医療診療部・特任助教)、本林 麻衣子(非常勤講師)、長堀 正和(臨床試験管理センター・准教授)

- クローン病/小腸内視鏡/年間355件

大塚 和朗、竹中 健人、日比谷 秀爾、河本 亜美

- クローン病/内視鏡的狭窄拡張術/年間107件

大塚 和朗、竹中 健人、日比谷 秀爾、河本 亜美

- クローン病/MRenterocolonography検査/年間400件

北詰 良雄(放射線診断科・准教授)

- 炎症性腸疾患/潰瘍性大腸炎(大腸全摘出)15件/  
クローン病(腸管切除・狭窄形成術)11件 肛門手術20件(2020年実績)

山内 慎一(副センター長、大腸・肛門外科・助教)



## 特色・診療内容

当IBDセンターは炎症性腸疾患5000例以上の診療を行う国内最大規模のハイボリュームセンターです。国内で行われる炎症性腸疾患のほぼすべての治療を担当し、開発段階から保険承認後までシームレスに治療に関する最新の情報が蓄積され、先端の治療法及び薬剤の選択が可能です。また専属のIBDナースを擁し、細やかな患者ニーズのすくい上げや種々の不安への対応、さらに療養就労両立支援の導入を積極的に行っています。多数の新薬が開発される中、患者さんの病態や社会的背景等個々の患者さんに応じて、標準治療から新規治療、治療まで柔軟に対応し、適切な治療を行います。



## お願い

炎症性腸疾患は慢性疾患ではありますが、急性増悪の際など、早急に積極的な治療が必要な場合も少なくありません。そのような病状の方は、予約の電話を頂く際にその旨遠慮なくお伝えください。

潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センターへご紹介の際には、「IBDセンター」宛てとし、医師指定がある場合は医師名も紹介状に記載いただくとスムーズです。

参考：消化器内科もご覧ください。

【外来】初診事前予約受付(地域連携室)

TEL 03-5803-4655 (平日8:30~16:00)

※詳細はP.6をご覧ください。

【入院】転院依頼(入院支援室)

TEL 03-5803-4506 (平日8:30~17:00)

※詳細はP.7をご覧ください。